特定非営利活動法人
サヘルの森　機関誌
サヘル
SAHEL
No.105　2019. 12

今夏の活動を終えて

坂場光雄

１．マリの農業

マリは概ね6～9月が雨期、10～5月が乾期である。人口は1854万人(2017年、世銀)、多民族国家で多くの言語・文化がある。

マリの農業部門はGDPの40%を構成し、人口の80%が従事している。農業は自給の穀類(ソルガム、ミレット、トウモロコシなど)を中心に栽培される。換金作物としては綿花の割合が大きく、他に野菜や落花生などがある。雨季の天水に依存しており、不安定である。

2019年は6月下旬になって、ようやく雨が降り始めたが、7月になっても畑の耕起が行われていないところが見受けられた。

雨が降らないと耕起が始まらない(6/17)

２．治安状況

マリには5月下旬から2か月滞在したが、バマコでは治安の問題は伝えられていなかった。6月10日にマリ中部のドゴン族のソバヌクー村、6月19日にガンガファニ村、ヨロ村が襲撃され、たくさんの村人が殺害された。3月にはバンカス圏にあるフルベ族のオゴサグー村で百人以上が殺害される事件が起きていた。背景には土地や水を巡る争いに、武装集団の存在が絡んでいるようだ。

マリ、ブルキナファソの国境はマリ政府やブルキナファソ政府の治安がとれていないようである。モプチから70㎞ほど東にあるバンディアガラの町はドゴン族観光の中心地であったが、無人地帯になったと聞いた。

6月28日、バマコからファナに向かう途中のザンティギラの検問所を通過したときに北側の見える場所に、ブルーシートで覆われたドゴンの避難民のキャンプが出来ていた。6月25日の通過の際にはなかったものである。キャンプでの人の動きは感じられなかった。

7月5日にバマコ市内での2つの抗議デモ注意の情報があったが、問題なく過ぎた。ただ、東部幹線道路脇にある交通警官駐在場所の日除け屋根が押し曲げられていた。

ファナで活動していて幹線道路に出ると、軍の輸送トラックや小型トラックの小部隊に出会う機会が多くなった。

ドゴン族の避難民キャンプ（6/28）

その後もメナカでの襲撃（11/1、2）以降、11/18にもメナカの南でニジェール国

境のタバンコール（Tabankort）でマリ軍のキャンプが襲撃され、死傷者が出ている。トンブクトゥやキダールでも治安に関する事件が発生している。

３．苗木配布

今夏の配布本数は 14,700 本、63 の村・学校など（試験地も含む）である。事務所で作った苗木と地域苗畑から購入した苗木を自動車に積んで、直接に村や地域を訪れ、配布、植栽した。大きな村では 1 回の配布では行きわたらず、2 回行う場合もあり、箇所数としては 2 か所にしてある。

苗木配布（カリンコ村・ﾌｧﾅ）（6/30）

配布樹種はユーカリが 47.4%、次いでバオバブが 21.7%、ソモ 14.6%、ニーム 3.8%である。

４．学校林

マリでの学校林は、緑陰づくりにより子供たちの教育環境の改善、健康の増進を図るものである。教育分野においても地方分権化が推進されているマリでは、保護者やコミュニティ、学校の代表者から構成される「学校運営委員会」が学校施設の日常的な維持管理の責任を持つことになった。

今年は村に苗木配布に行くと、学校の先生ばかりでなく、村の担当者から苗木の要請があった。村での苗木配布では多くの人たちが家畜に食われないようにして植え付けており、同様に行うものと判断して、100 本~200 本の苗木を提供した。家畜は作物の栽培時期にはつながれるということも強調された。

柵づくり（ﾏﾅｺﾛ小学校・ﾌｧﾅ）（10/28）

しかし、学校林では、配布の苗木が植えられていなかったり、柵がなかったりした場所があったので、8～10 月に柵作りと植え付けを実施した。

今後は定着率を高めるために適正な配布本数や保護柵設置を容易にする支援が重要である。一度に完成を目指さず、少量ずつ実施していく予定である。

金網柵づくり（ﾗﾐﾆﾌﾞｸﾞｰ小学校・ﾌｧﾅ）（9/10）

12 月 4 日、この原稿を作っているときに、アフガニスタンで活動中の中村哲氏(ペシャワール会)が銃撃され、亡くなったというニュースが届いた。水利灌漑事業で「緑の大地計画」を進めているところでした。大変残念です。ご冥福をお祈り致します。

5 年目の里山再生実践

榎本肇

昨年までの 4 年間で 9 ヵ村 27 名の里山再生実践者が生まれました。そのうち 2 割は家庭の都合などで休止状態ですが、残りの人たちは、各々が自身の土地で里山再生の活動を続けています。5 年目を迎えた実践活動についてご報告します。

独り立ちを始めた実践者

実践者は、研修後、マリ人スタッフのサポートのもと、苗畑を作ってそれぞれ苗木栽培を始めています。そして雨期になると自身の耕作地、休耕畑や潅木林に植えていきます。

研修から数年を経過した実践者は手慣れたもので、苗木の種子やポットを自分で用意して苗木を育て、雨期になればマリ人スタッフのサポートを待たずに自身の土地へ苗木を植えています。また、これまで植えていた土地が手狭になり、新たな土地に苗木を植え始めた人も出てきました。

新たな土地に接木されたｽﾞｨｽﾞｨﾌｨｽ改良種

苗木を作り、植え育てるというサイクルを十分に自分のものにしてきています。

また、苗木をたくさん作ったので、同じ村で懇意にしている人に無料であげたり、興味を持った村人が実践者から苗木を買って植えたり、実践者の周囲に良い影響を与えて、里山再生の実践に広がりが出てきました。

多くの苗木が生産された実践者の苗畑

カイセドラの林

カイセドラ（*Khaya senegalennsis.*）は、センダン科の在来樹木で、高さ 30m を超える大木に生長します。マリでは農村部で板材として加工され、家具や学校の机などに使われます。

植林と言えばマリではユーカリを植えることが多いですが、サヘルの森ではこの在来種のカイセドラも育てていこうと、5 年ほど前から採取した種子を地域苗畑で育ててもらい、苗木配布しています。

実践者にもカイセドラの種子を配り、自身で植えるように育苗しています。ジェバ村では数年前に植えたカイセドラの林が順調に育ち、既に 3m を超えているものもあります。ユーカリに比べれば生長は遅々としていますが、次の世代が使う林として育てていってほしいと思っています。

植えて 3 年目のカイセドラの林

実践者間の交流

これまでも、講師として研修を担ってくれた地域苗畑主のところへ、研修後に実践者が訪ねていき、教えを請うたり、先輩実践者のところへ意見交換や技術交流のために訪れたりと、里山再生を進める上での緩やかな人的なネットワークを構築してきました。

今年もカソマブグー村のバルー・ジャラさんから他の実践者の活動を見てみたいとの要望が出たので、ウェラクラ村とジェバ村の実践者のもとをサヘルの車で訪問しました。

アカシア・セネガルの林を見学

バルーさんはノートを片手に、訪問先の実践者に熱心に質問をしていました。様々な目的で様々な木を植えているのを見たり、試行錯誤の上に適当な苗木培土を見出した話を聴いたり、今後の自身の活動にイメージを膨らましているようでした。

こうした横のつながりをもっと作っていきたいですし、実践者の周りでも他の村人との間にこうしたつながりができるように新しい試みも始めていければと考えています。

育苗土についての情報を得る

マリ生活点描

バマコの市場で見つけた一品。

コンロで木炭の下に敷いて使う。自動車のタイヤを燃やした後に残るワイヤーをまとめたリサイクル品。木炭でワイヤーが熱せられ、輻射熱で熱効率が良く調理ができるものらしい。これを使えば、木炭の節約になるという優れもの。お値段、150CFA（約 30 円）。

おもしろ在来種～第1弾～
ザバンという果実
(Saba senegalensis.)

マリでは 6 月になるとマンゴーと共に黄色い果実がたくさん出回ってくる。7 月になって、マンゴーが少なくなっても、この実だけはたくさん見かける。大きなものは長さ 10 ㎝、直径 7～8cm の楕円形で、堅い。道端では子供が束ねた実を高く持ち上げて、走ってくる自動車にアピールしている。村の入り口でザルに入れて売っている。苗木を配っていると、村人がくれたりする。人気のある果実である。

実は押しつぶして割れ目を入れ、厚い皮をむく。なかなか割れないと、村のマダムが手に挟んで押しつぶし、割れ目を入れてくれた。力持ちである。果皮の下からは白い液がしみだしてくる。黄色い実には裂け目があり、2 ㎝ほどの塊でほぐれてくる。

これを口に入れてしゃぶるわけだが、たいへん酸っぱい。果汁は表面に含まれる繊維に含まれており、その中は硬い種である。しばらく口で転がして、種は吐き出す。

ザバンはツル植物で、ファナ試験地の周辺のブッシュ（藪）の中にも生育しており、3 ㎝ほどの細い 5 弁の白い花を付けている。ザバンはブッシュで野火に包まれて燃え、被害を受けているが、よく回復している。

実は空いたペットボトルに入れて、水を入れると、酸っぱいジュースができ、砂糖を加えると、よい飲み物になる。空き瓶にたくさん実を入れて、砂糖を加え、ドライイーストを入れて発酵させるとすっぱい飲み物が出来、楽しめた。

この植物の学名が長い間見つからなかった。サヘルの植物、東アフリカの樹木、ケニアの樹木などの図鑑を調べたが、出ていない。インターネットでセネガルの植物を何回か調べた。その中で、自生食用植物の果実の写真リストが出ていた。画像が不鮮明であったが、順番に調べていくと、ウォルフ語で MADD という植物にぶつかった。これを調べていくと、種子販売のサイトがあり、学名が確認できた。学名は Saba senegalensis、キョウチクトウ科の植物。仏語で Liane saba。キョウチクトウ科はすべて有毒と思っていたが、食用になる種類があり、驚いた。

学名がわかれば、検索は容易である。学名を検索すると、いろいろな言語で解説が出てくるが、「翻訳」にすれば、説明はなんとか理解が出来る。これらに依れば、ビタミンCが豊富であり、β-カロテン、多くのミネラルが含まれているとある。葉はソースや調味料として利用されている。根や樹皮は薬用として使われている。　　（坂場光雄）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

面白いアフリカの在来種をシリーズでご紹介します。次号もお楽しみに！

会員番号物語（その15）

アフリカ未踏の事務局員

原　梓（会員番号1543）

学部生時代から北タイに通い続け、修士課程修了後はチェンマイ大学での留学を経て、現地の財団に勤めました（日本のNGOの現地駐在員を兼務）。私の研究、現地のNGO活動のテーマは山地民（山岳少数民族）の人身売買や性的搾取の問題でした。現地での活動は、村や学校を回って人身売買予防啓発の劇（私はブローカー役）、子どもや女性とのアクティビティ、人身売買に係る調査、各省庁の会議への出席と、タイ人スタッフと同じような仕事をしていました。

そんな私がサヘルと関わるようになったのは実家のご近所さんである小島さん（会員番号5番）の誘いでした。その後は、サヘル1親切な榎本さん（会員番号688番）に多大な迷惑をかけつつも、運営委員や会員の皆さまの助けを借りながら今に至ります。

現在、北タイの山地民が抱える問題の多くは環境に起因していると考えられます。かつては自由に森を使い、自給自足の生活をしていましたが、森林保護政策と定住化政策により移住を余儀なくされた村は多々あります。タイ政府や平地タイ人からすると山地民は移民であり、焼畑によってタイの豊かな森を壊した犯人のレッテルを貼られています。定住先は耕作地もわずかで土壌も悪く、今まで通りの自給自足の生活は到底無理、街に日雇い労働へ行くか小作人として働くしかなくなった人も多くいます。現金収入も必要になりました。急激な暮らしの変化から、安くて危険できつい労働ではなく麻薬の売買や性産業へと足を踏み入れる人たちが出てきました。一見すると自らその道に向かったように見えますが、貧困、国籍、教育（山地民の第一言語はタイ語ではありません）、差別など様々な要因が考えられます。

耕作地を持つ山地民も、換金作物（とうもろこし・しょうが等）を作り続け土地が痩せ、種や農薬代で借金を膨らませた人もいます。それが人身売買の引き金になることもあるのです。

30～40年ほど前には、見渡す限りの芥子畑だった村は、王室プロジェクトの支援で、コーヒーやマカダミアナッツ、お茶などの栽培をしています。アグロフォレストリーや有機栽培を推進するNGOもあり、村の中でも徐々に「持続可能な農業」を考える人が出始めました。現地で地道に活動を続けている方たちには頭が下がります。

村人たちが自ら厳格なルールを作り、森を管理（GPSも使用）し、世界的に評価されているカレン族の村もあります。彼らが持つ伝統的な知恵が見直されているのです。

「森を守ることは大切」、「先人の知恵に学ぼう」というのは、失敗を経験したりすると身にしみますが、耕地面積を増やして収入が増え、農薬が新しく入り、その効果を見せつけられた人たちの耳にはなかなか入っていかないように思います。しかしマリでも既に過剰な利用で土地が痩せた耕作放棄地・荒廃地があります。マリはまさに急激に成長している国です。発展の裏で公害など様々な問題が一気に現れてきています。

若者がバマコを目指す気持ちは否定できませんが、「帰りたい」と思った時に帰ることができる故郷の環境を守り、そこに暮らす人びとが安心して暮らし続けられるようサポートすることがサヘルの存在意義なのだと思います。木を植える目的は、森を作ることではなく、「暮らしを守ること」なのです。そのために私も微力ながら頑張りたいと思っています。

…会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつずつのドラマと思いがある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会は前に進んでいきます。（サヘルの森）

国内活動（1月～12月）

＜報告会＞

・ 9/14　坂場光雄　現地活動報告会
「学校林から見えてきた村人のつながり」
（地球環境パートナーシッププラザ）
・9/29　上田隆　原梓　活動報告会
「アフリカの里山って何？」
（グローバルフェスタ内活動報告ブース）

＜定例活動＞

・7/20　肥後細川庭園と雑司が谷
・9/21　古い水運水路と地下鉄博物館
・10/19　目黒天空庭園と西郷山
（雨天中止）
・12/21　小宮公園の雑木林を歩く
＊8月はお休み、11月はサヘルキャンプ

＜イベント＞

■グローバルフェスタ 2019

今年も9/28,29の2日間、お台場センタープロムナードにてグローバルフェスタが開催されました。今年は雨に降られることもなく多くの方がサヘルのブースに足を運んでくださいました。

「アフリカの里山と林産物」をテーマにバオバブパウダー（葉・フルーツ共に）やモリンガ茶、シアバターなどを販売しました。食品は大人気で完売が続出でした。鮮やかなアフリカプリントのエプロン・バックも目を引き、話のきっかけとなりました。

「森を守ることは暮らしを支えること」という私たちの活動の考え方やマリの里山の暮らしを紹介できたと思います。

アフリカンスクエアーから寄付として頂戴したマリの訳ありドライマンゴーも「美味しかった」と翌日にリピートする方もいて完売しました。ご協力に感謝します。

29日はブースでの活動紹介に加え、イベント内活動報告ブースにて運営委員の上田さんと一緒に「アフリカの里山って何？」というテーマで活動報告を行いました。20人の方がご参加くださいました。政府とではなく、畑で農作業しているおじさん・おばさんと一緒に草の根で活動している話や、首都バマコの発展や人口増加によって急速に里山の木が失われている話もできました。

ボランティアとしてブース運営にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。（原）

■第26回みなこいワールドフェスタ

今年も10/27に長野県駒ヶ根市で開催された「みなこいワールドフェスタ」に参加しました。駒ヶ根市には全国に2ヶ所しかない、青年海外協力隊の訓練所があります。サヘルのブースは南米に派遣予定の2名の協力隊候補生がお手伝いしてくれました。クイズラリーも好評でした。（榎本）

■サヘルキャンプ 2019

夏に開催していたサヘルキャンプを今年から秋に開催することとし、11/16に中屋敷作業場（横浜市瀬谷区）にて無事に開催しました。

参加者は会員を中心に14名でした。

内容は盛りだくさんで、作業場の周辺に過去に植えた木の観察ツアー、三石かまどで作るトゥアレグ風炊き込みご飯、たき火（焼き芋等）、バーベキュー、竹の切り出し、切り出した竹を使ってバオバブ＆モリンガパウダー入りのパン作り、ヤマモモの枝落とし、ヤマモモの草木染め、マリで行っている里山再生実践者研修のデモンストレーションとプチ体験です。次から次へと大忙しでした。

坂場代表の挿し木講習

実際に自分で手を動かして初めて気が付くことも多くありました。バオバブ苗木に自分で染めたハンカチなどお土産もたくさんあり、参加者に喜ばれました。

大変好評だった竹で焼くパンレシピは近々ブログ等でご紹介したいと思います。

■バードフェスティバル 2019

11月2日（土）、3日（日）に千葉県我孫子市の手賀沼湖畔で開催された「ジャパンバードフェスティバル」に出展しました。千葉支部は毎年参加していますが、今年も水鳥をモチーフにした西アフリカの布の展示、鳥の巣あてクイズ、タイのNGOが作る精巧な鳥笛（土笛）の販売などを行いました。団体展示

のほかに食べ物の屋台も並ぶイベントで、今年は約４万人が来訪しました。
宮崎県延岡市からこのイベントのために来たという親子は、九州では絶滅したオナガの巣に興味が尽きない様子でした。娘さんが名残惜しそうにしていたので、長野県で採取したコサメビタキという小鳥の巣を進呈したところ、大事そうに持ち帰ってくれました。
埼玉県から毎年来てくれている親子は、「自慢していいですか？」との前置きで、鳥の研究で兄妹ともに県から表彰されたことを報告してくれました。上田さんが袖ヶ浦の里山で見つけた巣を送ってあげていたのが役に立ったそうです。
双眼鏡をぶら下げた人がやたらと集まる不思議なイベントですが、面白かったとか勉強になったとか直接声をかわせるのが楽しみで参加しています。（高津佳史）

定例活動（1 月～3 月）

天候等の事情により中止となる場合があります。ご参加希望の方は事前に事務局までお知らせ下さい。

●1 月 18 日（土）10:30 集合
港七福神
集合場所：都営大江戸線・赤羽橋駅改札
●2 月 15 日（土）10:30 集合
多摩の桜ヶ丘公園と古神社
集合場所：京王相模原線・若葉台駅改札
●3 月 14 日（土）10:30 集合
平林寺と歴史民俗資料館
集合場所：JR 武蔵野線・新座大橋駅改札

活動報告会＆会員総会

2019 年度の会員総会を 3 月 29 日に予定しています。今回も、現地活動報告・会員総会・懇親会の三部構成です。
1 年の活動を振り返り、新たな 1 年の活動を考える貴重な機会ですので、是非ご参加ください。

日時：2020 年 3 月 29 日（日）
14：00～17：00　（開場 13：30）
場所：JICA 地球ひろば
セミナールーム 202AB
会員の皆様には追って詳細をお知らせ致します。

クリスマス募金のお願い

マリの平和を願って、毎年恒例のクリスマス募金への御協力をお願いします。
同封の振り込み用紙をご利用下さい。

苗木募金で里山再生

苗木募金は一口 500 円から受け付けています。500 円で、アフリカでは 2 本の苗木を村人に届けることができます（スタッフの派遣費用も含める）。
募金の際は「苗木募金」と明記下さい。

会費納入にご協力ください

NPO 法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

・一般会員　年 5,000 円
・維持会員　年 20,000 円

特定非営利活動法人 サヘルの森
住所：〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3-403
TEL：042-721-1601（留守電対応）
FAX：042-721-1704
郵便振替口座：00170-6-115054

HP：http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/
BLOG：http://sahelnomor.exblog.jp/
E-mail：sahel-no-mori@jca.apc.org

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
機関誌『サヘル』No.105　2019 年 12 月 18 日発行
発行人：坂場光雄　／編集：榎本肇
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊